

平成27年度新庄市総合教育会議

日 時 平成27年10月2日(金) 午後3時～
1

場 所 市役所議員協議会室

次 第

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協 議

①新庄市総合教育会議について(資料No.1)

②教育大綱の策定について(資料No.2)

③新庄市小中学校施設整備の基本的考え方について(資料No.3)

④新庄市の教育課題について(資料No.4)

4. そ の 他

5. 閉 会

(資料No. 1)

新庄市総合教育会議について

新庄市総合教育会議設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律162号。以下「法」という。）第1条の4第1項の規定に基づき、効果的に教育行政を推進していくため、新庄市総合教育会議（以下「会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 会議は、法第1条の4第1項の規定により、次に掲げる事項について協議及び事務の調整等を行う。

- (1) 市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定に関すること
- (2) 市の教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策
- (3) 児童、生徒等の生命若しくは身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

(構成員)

第3条 会議は、市長及び教育委員会をもって構成する。

(会議)

第4条 会議は、市長が招集する。

- 2 教育委員会は、その権限に属する事務について協議する必要があると思料するときは、市長に対し、協議すべき具体的事項を示して、会議の招集を求めることができる。
- 3 会議において構成員の事務の調整が行われた事項については、当該構成員は、その調整の結果を尊重しなければならない。

(意見の聴取)

第5条 会議は、協議を行うに当たって必要があると認めるときは、関係者又は学識経験を有する者から当該協議すべき事項に関する意見を聴くことができる。

(会議の公開)

第6条 会議は、公開するものとする。ただし、個人の秘密を保つため必要があると認めるとき、会議の公正が害されるおそれがあると認めるときその他公益上必要があると認めるときは、この限りでない。

(議事録)

第7条 市長は、会議の終了後、遅滞なくその議事録を作成し、これを公表す

るものとする。

(事務局)

第8条 会議の事務局を教育総務課に置く。

(補足)

第9条 この要綱に定めるもののほか会議の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

(資料No.2)

教育大綱の策定について

(第4次新庄市振興計画 新庄市まちづくり総合計画)

(教育部門抜粋)

(新庄市まちづくり総合計画 政策体系)

重点方針 1

「夢を持ち、元気で才能豊かな、いのち輝く新庄っ子を育成する」

施策 1 生きる力と夢を育む学校教育の推進

基本方針

変化の激しい社会に対応できるよう、学校教育の中で、子どもの心、能力、体をバランスよく育て、生きる力と夢の持てる教育を推進します。そのため、心の教育の充実を図りながら、たくましい児童生徒の育成と、各学校の実情に合わせた特色ある学校づくりを推進します。

現状と課題

少子化が進む中で、子どもの生きる力を育む教育をどのように充実させていくかが大きな課題となっています。そのため、各学校が創意ある教育活動を推進し、特色ある学校づくりを展開しています。読み書きの力を身につけ、考える力や豊かな心を育むのに欠くことができないのが読書です。学校図書館員の配置により子どもの読書量が増加しており、継続的な実施が望まれます。一方、国際理解教育を進めるうえで、小さな頃からの異文化との交流はその影響も大きく、外国語教育等の充実へ向けたさらなる教育環境の整備が求められています。

施策展開

心の教育の充実

「いのち」を大切に思う心の教育を充実させます。そのため、豊かな心を育む道徳教育を推進するとともに、平和に関する学習を行います。また、学校図書館の充実を図り、読書活動の推進により子どもたちの豊かな感性

と情操を育みます。さらに、児童会・生徒会の充実により、集団としての自浄作用を高めるなど積極的な生徒指導の推進を図るとともに、関係機関と連携した教育相談体制を強化し、児童生徒一人ひとりへの対応を充実させます。

特色ある学校づくりの推進

子どもたちの夢や主体的な活動を育み、新しい時代に大きく飛躍できるよう、各学校の創意あふれる教育活動により、特色ある学校づくりを推進します。そのためにも、教職員の研修を充実し、指導力の向上に努めるとともに、国際理解教育や環境教育、情報教育などを通し、確かな学力を育み、たくましく生きる子どもを育成します。

児童・生徒の健康と体力向上

健康で元気な子どもの育成を目指した活動を活性化します。また、子どもの体力・運動能力向上のため、発達段階に応じた計画的な指導を行うとともに、運動部活動などを通じたスポーツ活動の充実を図ります。さらに、家庭との連携を図りながら、地域に根ざした食育を推進します。

主な取組

- ・「いのちの教育」の推進
- ・読書教育の推進
- ・明るい楽しい学校づくりの推進
- ・国際理解教育の推進
- ・食育の推進

施策2 地域に根ざした学校教育の充実

基本方針

地域に密着した教育を推進するため、地域や高等教育機関等と連携しながら教育環境の充実に向けた取組を推進します。また、新庄市の特色である中学校区単位での小中連携事業を充実させながら、小中一貫教育に向けた取組を推進します。

現状と課題

学校教育での様々な課題を解決するためには、小学校と中学校がより密接に継続した教育環境を作ることが急務とされています。また、児童生徒が多様な経験を積み、様々な関わりの中で自ら興味をもって学ぶ力を育むためには、地域との関わりは欠かすことができません。そのため新庄市では、中学校区単位での交流活動や地域との結びつきを強めた学校運営を進めてきました。これをさらによりよいものとするために、小中一貫教育を推進するとともに、地域に根ざした学校づくりを進めていかなければなりません。また、児童生徒への多様な学習機会の提供と教育力の向上を目的とした、地域の高等教育機関等とのさらなる連携と活用が望まれています。

施策展開

小中一貫教育の推進

義務教育課程9年間を計画的かつ継続的に教育指導を行うことにより、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導が可能となります。そのため、心身の発達に考慮した連続性のある教育課程の編成を行うとともに、中学校区単位での児童生徒や教職員の連携・交流を進め、小中一貫教育のさらなる充実を図ります。

また、萩野地区における小中学校においては、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を、同じ敷地内で一緒に学校生活を送る施設一体型小中一貫教育校を設置し、モデル校としての取組を発信していきます。

地域の学校づくりの推進

郷土に対する関心や、自然・農業体験学習など学校だけでは学び得ないものを、地域との交流活動のなかで学ぶ取組を推進します。また、よりよい教育環境づくりのため、地域とともに元気な学校づくりを推進します。

高等教育機関等との連携及び活用

児童生徒の学習機会を一層充実し、教育力のさらなる向上を図るため、山形大学や農業大学校、地元の高等学校や研究機関との連携と活用を広げます。

主な取組

- ・ 9年間一貫カリキュラムの作成
- ・ 施設一体型小中一貫教育校の整備充実
- ・ ふるさと学習の推進
- ・ 学習支援ボランティアの活用
- ・ 山大エリアキャンパスとの連携

施策3 安全安心な教育環境の整備

基本方針

子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、登下校を含めた生活全般での安全を確保します。また、安全で快適な学校施設の整備を促進します。

現状と課題

多くの学校施設が老朽化しており、修繕・改築を計画的に実施していかなければなりません。小学校区単位で見守り隊が結成され、登下校時の安全が確保されています。さらなる安全確保のため、通学路の点検や地域内での危険箇所

の把握に努め、防犯や交通安全対策に対する取組の充実が求められています。
また、遠距離通学者への対策も求められています。

施策展開

学校施設の整備・充実

安全で快適な学校運営のため、学校施設及び設備の整備・充実を図ります。
また、大規模地震による災害などに備え、耐震化が必要な学校教育については、計画的な改修を行っていきます。

登下校の安全安心の確保

児童生徒が安心して登下校できるよう、関係機関が連携を強化して通学路の点検などを行い、交通安全対策に万全を期します。また、遠距離児童生徒の通学手段の確保を図るため、スクールバス等を配置し、安全な通学手段を確保します。

主な取組

- ・施設耐震化の計画的実施
- ・環境にやさしい学校づくりの推進
- ・安全安心通学プランの推進
- ・あいさつ運動の推進

重点方針 2

「互いに学び高め合う生涯学習の推進と豊かな文化芸術の振興を図る」

施策1 生涯にわたる学びの推進

基本方針

市民一人ひとりの価値観やライフスタイルが多様化する中、市民の学習ニーズに対応した多様な学習情報と学習機会の提供に努めます。また、生涯を通じて学びたいときに誰もが学べるよう、生涯学習施設の充実を図ります。

現状と課題

少子・高齢化や情報化・国際化などの社会情勢の変化とともに、生涯学習の場では多様な学習機会が求められており、より充実した学習機会の提供を図っていかねばなりません。また、一人ひとりの経験を活かした公益活動を推進するとともに、社会的課題に対応するための学習機会の提供も必要とされています。

施策展開

多様な学習機会の提供

市民の学習への関心の高まりに対応するため、放送大学の活用や、市民を対象にした各種講座の開設を行います。また、市報やホームページ等を活用し、市内外の学習情報の提供に努めます。

生涯学習施設の充実

民間活力を活かしながら誰もが利用しやすい施設を目指すとともに、施設間の連携を図りながら、学習の場を充実していきます。

主な取組

- ・市民主体の学習機会創出
- ・地元研究機関を活用した学習
- ・学習情報の提供
- ・青少年ボランティアへの育成・支援

- ・施設の計画的な整備

施策2 活力みなぎる地域活動の推進

基本方針

市民が地域において主体的に活動するための学びを支援するとともに、活動拠点の環境整備を進め、地域を支える人材の育成を図ります。

現状と課題

高齢化や核家族化の進行により、地域での人間関係や連帯意識が希薄化しつつあります。そのため、地域を支えるリーダーの育成と、地域の課題解決の基盤となる地域コミュニティの活性化が求められており、また、活発なコミュニティ活動を行うための環境整備が必要とされています。

施策展開

地域における活動の環境整備

地域の活動拠点となる生涯学習施設や地区公民館と連携した地域活動を進めます。また、地域活動への参加を促すための啓発を行うとともに、公民館機能の環境整備を図るなど、地域コミュニティ活動に対する支援を行います。

地域を支える人材の育成

活力ある地域づくりを推進するため、世代間交流を通じた担い手づくりと地域の仲間づくりを進めます。また、地域活動の中心となるリーダー育成のための研修機会の充実を図るとともに、学んだ成果が地域に活かせる環境づくりを進めます。

主な取組

- ・地域コミュニティ活動への支援
- ・地域のリーダー育成

施策3 市民が輝く文化芸術の振興

基本方針

伝統文化の継承や文化財の保護を通して、ふるさとの歴史や文化に対する理解を深めることにより郷土愛を育みます。また、文化芸術の鑑賞や創作等に関わる機会を提供することにより、感性豊かな人材の育成に努めます。

現状と課題

社会の情報化とあいまって文化芸術に触れる機会は多くなっているものの、直接鑑賞する場が少ないことから、できるだけ多くの機会を設け、心豊かな人づくりをしなければなりません。

ふるさとの宝・文化財は、有形・無形を問わず、市民のふるさと意識を高める源となるものです。今後も、市民が郷土の歴史文化への理解を深めながら、それらを次の世代に継承していくとともに、国重要無形民俗文化財に指定された新庄まつりをはじめとして、魅力ある新庄市の文化を全国に広く発信していかなければなりません。

施策展開

伝統文化の継承とふるさと意識の醸成

文化財の保護と活用を図り、新庄まつりや民話をはじめとした新庄市の誇れる伝統文化を後世に継承します。また、ふるさとの歴史や文化を知る機会を増やすとともに、広く情報発信することにより、ふるさと意識の醸成を図ります。

創造的文化芸術活動の推進

質の高い音楽や演劇などの文化芸術を鑑賞したり、文化芸術で活躍する地元出身者の業績を知る場の充実を図ります。また、市民が文化芸術活動に参

加できる機会をつくるなど、自主的な活動に対する支援を行い、豊かな心の育成を図ります。

主な取組

- ・新庄まつりの継承
- ・地域の伝統行事、まつりの学習
- ・民話の学習機会の拡充と語り部の育成
- ・芸術鑑賞機会の整備
- ・子ども芸術学校

重点方針3

「一人ひとりに応じた夢と感動のあるスポーツライフを実現する」

施策 1 多様なニーズに応える生涯スポーツの振興

基本方針

市民一人ひとりが日常生活の中で目的や志向に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しめる社会を実現するため、ニーズに応じたスポーツイベントの開催や、スポーツプログラムの提供を行い、健康で豊かな生活が送れる環境をつくります。さらに、適切な施設運営、整備を進め、誰もがスポーツに親しめる環境の整備を図ります。

現状と課題

生涯スポーツの場では、市民の誰もが、年代にあったスポーツを親しむことができるよう、レクリエーションスポーツや親子で楽しめるスポーツなどの情報提供、市民参加型スポーツイベントの開催が必要とされています。また、総

合型地域スポーツクラブは、市民の自主性により、身近なスポーツ環境を作りあげていくものであり、スポーツ人口拡大のためにもその役割は大きく、クラブの充実と会員数の増加が課題となっています。スポーツ施設については、老朽化が進んでおり計画的な改修が必要とされます。

施策展開

多様なスポーツ機会の提供

多くの市民が参加しやすいイベントを開催するとともに、多様なスポーツ機会を提供し、スポーツに対する親しみを深めます。また、市民が身近にスポーツを感じることができるよう、様々な情報提供を行います。

総合型地域スポーツクラブの充実

子どもから高齢者までの、健康や体力づくりのため、市民自ら運営する総合型地域スポーツクラブの活動充実のための支援を行います。

スポーツ施設の充実

スポーツ施設の充実は、大きな大会を誘致できる機会が増え、競技力の向上にもつながることから、長期的な整備計画を立て、広域的な使用も含めた計画的な整備を図ります。また、学校体育施設の有効活用を図り、スポーツ活動の場の充実を図ります。

主な取組

- ・スポーツイベントの開催
- ・市民参加型スポーツの普及
- ・スポーツ情報の提供
- ・地域スポーツクラブの活動支援
- ・既存施設の計画的な整備と有効活用

施策2 新たな活力を生み出す競技スポーツの振興

基本方針

トップレベルの大会で地元選手が活躍することは、応援する市民の活力となり、地域の活性化にもつながります。関係団体との連携強化により、選手や指導者の育成を図るとともに、全国規模の試合の誘致に努め、競技力の向上を図ります。

現状と課題

新庄市からは、全国的に活躍する優秀な人材が輩出されていますが、そのような人材が地元で活躍できない状況にあります。また、小中学校で活躍している選手が、高校生、社会人になると他の地域で活動しているのが現状であり、地元でも活動できる環境の整備が求められています。

競技スポーツでの活躍は、市民に夢と感動を与え、地域の一体感と活性化を促進します。そのため、スポーツ関係団体と連携を取りながら、選手や指導者の育成・確保、ジュニア期からの一貫指導システムの構築など総合的な取組が必要となります。

施策展開

選手の確保・育成

ジュニア期からの一貫した選手育成のためのシステム構築に向けた取組を行い、地域で活躍できる選手の育成に努めます。競技毎の育成計画を策定し、長期的な育成を図るとともに、活躍が期待される選手への支援を行います。また、スポーツ大会の誘致により、トップレベルのプレーに触れる機会を増やし、競技力向上への動機付けを行います。

指導者の育成・支援

競技力向上のためには、専門的知識と熱意のある指導者を確保する必要があります。そのため、競技団体と連携を図り、指導者養成のための研修を実

施し、指導者の裾野を広げる取組を行います。

主な取組

- ・ 学校・企業・競技団体が連携した選手の確保・強化
- ・ 強化推進重点種目の設定
- ・ 駅伝の強化
- ・ スポーツ大会の誘致
- ・ 指導者名簿の作成・活用
 - ・ スポーツ指導者公認資格の取得奨励

(資料No.3)

新庄市小中学校施設整備計画の
基本的な考え方について

新庄市立小中学校施設整備計画の基本的考え方について 2015.10.2

■基本的な考え方

新庄市の教育の柱に小中一貫教育を据えていることから、今後の学校施設の整備にあたっては、各中学校区において小中一貫教育校（義務教育学校）として整備することを基本に進めていく。また、建設にあたっては、本年 4 月に開校した施設一体型小中一貫教育校「萩野学園」をモデル校として整備していく。

なお、建設計画（基本設計）から開校まで最低 5 年かかること、また、施設整備には相当額の財政負担が伴うことなどから、財政負担の平準化を図りながら今後の学校施設整備計画を立てなければならない。

○新庄中学校区

- ・新庄小学校（校舎：S42.3（教室棟）、S43.3（管理棟）、屋体：S44.3）
- ・新庄中学校（校舎：S54.3（管理棟）、S54.3（教室棟）、屋体：H25.3）

《整備計画》

新庄小の築年数から見て、明倫中学校区の次に改築を考えなければならない。ただし、新庄小、新庄中ともに校地面積が狭いことから、施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校）を建設する場合には、新たに建設場所を選定する必要性が生じる。

最上地区で進められている県立高校再編の状況も踏まえながら、今後建設場所も含めた検討をしていかなければならない。

○明倫中学校区

- ・沼田小学校（校舎：S38.6（教室棟）、S39.3（管理棟）、屋体：S39.12）
- ・北辰小学校（校舎：S56.3、屋体：S54.3）
- ・明倫中学校（校舎：S54.10（教室棟）、S55.3（管理棟）、屋体：S55.3）

《整備計画》

沼田小が築 50 年を超えていることから、最優先での整備が必要である。明倫中学校区については、沼田小、明倫中が隣接した敷地の中に設置されていることから、この敷地を一体的に活用した施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校）の建設が理想である。

課題としては、同じ明倫中学校区にある北辰小について、統合に対する地区の同意をもらえるかが大きなカギとなるため、早急に地区との協議を行う必要がある。

○日新中学校区

- ・日新小学校（校舎：H11.12、屋体：H13.3）
- ・日新中学校（校舎：S55.9、屋体：S55.3）

《整備計画》

日新小については改築後 16 年とまだ新しく、また、日新中についても今年度より大規模改修に向けた基本設計（H29～H30 に改修予定）に取り組んでいるため、施設一体型

小中一貫教育校（義務教育学校）の建設については、まだ現実的ではない。しかし、これから 15 年後には、日新中について築 50 年を経過し、日新小についても 30 年を超え改修時期を迎える。明倫中学校区、新庄中学校区の整備終了後を見据え、施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校）の建設に向けた検討を早い時期から行う必要がある。

○八向中学校区

- ・本合海小学校（校舎：S57.3、屋体：S53.1）
- ・升形小学校（校舎・屋体：S57.12）
- ・八向中学校（校舎：S46.2（管理教室棟）、H4.3（特別教室棟）、屋体：S57.3）

《整備計画》

3 校とも築 30 年を超え改修時期に来ているが、地区全体の児童生徒数の減少により、現在本合海小、升形小ともに一部複式学級となっている状況にある。将来的には、八向地区中学校区全体の児童生徒数も 100 人を割ることが想定されることから、他の中学校区との統合も視野に入れた検討を行わなければならない。

(資料No.4)

新庄市の教育課題について

新庄市の学校教育の課題について

1. 平成27年度全国学力学習状況調査の結果から

○調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○実施日 平成27年4月21日（火）

○対象 国・公・私立学校の小学校第6学年・中学校第3学年（悉皆調査）

○調査内容

◇教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

・主として「知識」に関する問題（A） ・主として「活用」に関する問題（B）

◇生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・児童生徒に関する調査

・学校に関する調査

○調査結果概要

◇教科に関する調査

【新庄市全小学校】

○国語A 新庄市 若干<全国平均<若干 県平均

○国語B 新庄市 若干<県平均<全国平均

○算数A 新庄市<県平均<全国平均

○算数B 新庄市 若干<県平均<全国平均

○理科 全国平均 若干<新庄市<若干 県平均

※平成26年度と比較すると、国語Aは全国との差を縮めているが、国語B・算数A・Bについては差が広がっている。

【新庄市全中学校】

○国語A 全国平均<県平均<若干 新庄市

○国語B 全国平均<県平均<新庄市

○数学A 新庄市<県平均<全国平均

○数学B 新庄市<県平均<全国平均

○理科 全国平均<若干 新庄市<県平均

※平成26年度と比較すると、国語A・Bいずれも全国平均を上回り、数学A・Bでは、全国を下回っているものの、差が縮まっている。

※理科については恵まれた自然環境や教育研究センターの活用が成果となっている。
※小学校・中学校とも無答の割合が山形県や全国よりも低い結果となっている。子どもたちは簡単にあきらめずに、問題に向かっていく姿勢はできていると考えられる。
※今回の調査結果から、小学校、中学校ともに算数・数学の学習内容の定着に課題がある。
※当該学年以前の学年の問題が出題されており、学校全体で成果と課題を把握しながら、日常の授業の中で意識した取組を行う必要がある。また、字数を決めて書く、根拠を説明する事については、他教科や総合的な学習の時間でも意識して取り組みたい。

◇生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

【学校質問紙：新庄市全小学校】

- 子どもたちの学習参加意欲や態度については、全国や県よりも高い。
- 本やインターネットを活用した調べ学習が身につくような指導がよく行われている。
- 補充や発展など、個に応じた指導が十分に行われていないととらえている傾向がある。

【学校質問紙：新庄市全中学校】

- 子どもたちの学習参加意欲や態度については、全国や県よりも高い。
- 話し合い活動で、自分の考えをしっかりと伝えたり、最後まで話を聞いたりすることが全国や県よりも高い。しかし、考えを深めたり広めたりする手立てが十分でないと捉えている。
- 総合的な学習の時間の趣旨やねらいを踏まえた指導に課題があると捉えている。
- 補充や発展など、個に応じた指導が十分に行われていないととらえている傾向がある。

【児童生徒質問紙：新庄市全小学校】

- 自尊感情や規範意識、学習習慣等は全国や県よりも高い。
- 読書への興味は全国や県よりも高い。
- 携帯・スマホの使用時間、テレビ・ビデオの視聴時間は全国や県よりも長くなっている。
- 「算数の授業がよく分かる」と答えた児童は、全国や県よりも低い。

【児童生徒質問紙：新庄市全中学校】

- 自尊感情や規範意識、学習習慣等は全国や県よりも高い。
- 読書への興味は全国や県よりも高い。
- 休日の家庭学習の時間は比較的確保しているものの、平日については県や全国と比較して少なく、特に全国とは大きな差が生じている。
- 携帯・スマホの使用時間、テレビ・ビデオの視聴時間は全国や県よりも長くなっている。

※子どもたちの学習参加態度や意欲については概ね良好な結果となっている。
※自尊感情や読書への興味関心などについて、県や全国よりも良い結果となっている。新庄市の「こころの教育」や「読書教育」の成果と捉えられる。
※家庭学習への取組や、携帯・スマホの使用時間、テレビ・ビデオの視聴時間については課題があり、家庭の協力が必要となっている。

【今後の取組について】

- 各学校で結果について成果と課題を分析・整理し、毎日の授業の中で取り組んでいく。
 - 問題の文章を読み込んで理解した上で回答する力が求められているので、どの教科でも文章をしっかり読んで考えることを大切にする。
 - 根拠を明らかにして書くことや、字数を決めて書く力が求められているので、どの教科においても自分の考えをまとめて書く時間を確保する。
 - 系統性のある算数・数学については、全学年で課題点を重点に取り組んでいく。
- 各学校では学校で取り組むことと、家庭に協力を依頼することの保護者への説明を丁寧に行い、説明責任を果たす。
- 教育委員会では、学校訪問を通して授業づくりへの支援を行うとともに、効果の上がる実践を紹介していく。また、教育研究所の「授業づくり部会」の中で、学力向上について研修を深める。
- 教育委員会では最上教育事務所と連携して学力向上に取り組む。

2. 英語教育の充実に向けて

○現状

- ◇現在ALTを2名配置していただき、各学校において学級担任や教科担任と連携しながら指導にあたっている。
- ◇2名のALTについては、誠実で明るい人柄で児童生徒からも好かれ、良好の関係の元に楽しい授業を展開している。
- ◇新庄市で予算化していただいている標準学力検査結果を見ると、国語・社会・数学・理科については全国平均を上回るか同等の結果であるが、英語については全国平均よりも下回る結果となっている。
- ◇平成30年度からの小学校高学年外国語の教科科への対応も踏まえ、市の英語力の向上が課題となっている。

○対応として

- ◇現在2名配置していただいているALTに加え、もう一名を配置していただくことで、各学校における英語教育の充実が図られ、英語の学力向上が期待される。
- ・これまでの1クラス平均授業時間数
 - 小学校：17.3時間 → 28.0時間（+10.7時間）
 - 中学校：24.4時間 → 37.6時間（+13.2時間）